

国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院

National Center for Global Health and Medicine
http://www.ncgm.go.jp/

発行 連携医療ネット

住所 東京都新宿区戸山1-21-1

代表 TEL 03-3202-7181

FAX 03-3207-1038

地域医療連携室

直通 TEL 03-3202-8066

FAX 03-3202-1003



連携医療NEWS

Vol.43 3月号

内容

- ・救命救命センターの歩み 1
- ・災害訓練の実施 2
- ・市民公開講座のご紹介
看護通信 3
- ・旬の味覚
医師人事異動 4

救命救急センターの歩み

救命救急センター長

木村 昭夫



国立国際医療研究センター病院の救急医療体制は、その前身である国立国際医療センターの緊急部（院内的には救急部）として、半年の準備期間の後、平成10年4月より開設され活動を開始いたしました。当初のスタッフは、常勤医2名、固定のレジデント2名、それにローテーション研修医/レジデントが数名であり、夜間・休日のみの診療活動でありました。救急部開設前には、年間2000件程度の救急車による搬送件数だったのが、平成11年度以降は年間約6000件となるまで増加しました。平成11年8月からは、東京消防庁における三次救急指定施設に加わったのを期に、三次救急患者のみ終日受け入れるようになり、重症例が全救急患者の11～14%に増加いたしました。平成13年度からは、救急医学を専攻する研修医の採用が開始され、将来の救急部を担う若手救急医の確保を、毎年独自に行っていける道が開かれました。また平

成14年9月より常勤医の増員が1名認められました。昼間の救急外来に救急病棟から2名の看護師が確保され、終日救急車による搬送患者を救急部医師が救急外来の処置室で診療することが可能となりました。

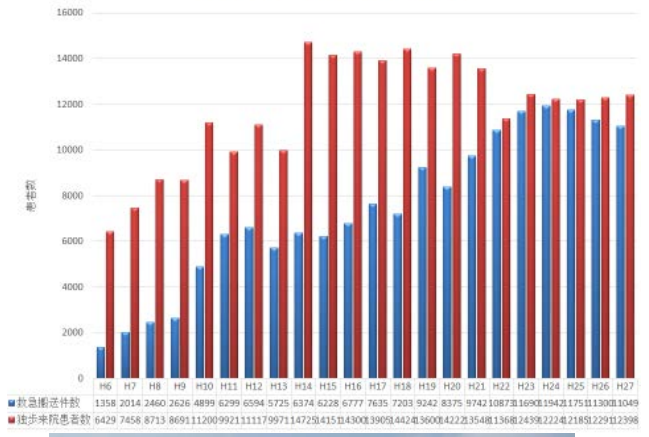
平成14年12月下旬の病棟再編成を期に、7階南病棟を救急部病棟兼経過観察病棟（20床）とし、独立した看護単位（看護師24名）を持つことが可能となりました。夜間の救急入院患者は、小児、産婦および個室を希望する患者を除き原則的に救急病棟に収容され、翌日各病棟に転棟するというシステムを開始いたしました。

平成22年5月から屋上にヘリポートを備えた新病棟への移転に伴い、2つの蘇生室、8つの二次救急患者対応の診療ブース、6つの独歩来院患者対応診察室、感染隔離用陰圧室、除染室、CT並びに単純X線撮影室を備えた救急外来センターがオープンしました。また同時に、7階東に12床の集中治療スペースを含む30床の救急病棟がオープンし、同年の9月からは救命救急センターの認可も獲得しました。平成23年度から区西部東京ルール地域救急医療センター

となり、平成24年度からは、都で唯一の身体合併症を伴う精神疾患搬送困難例に対応する中核病院として認可を受けました。さらに平成25年4月からは4対1の看護体制が確立し、救急専属医師も15名（その内約半数が救急科専門医）の体制となり、救急専属の医療ケースワーカーや病棟薬剤師も配置されるようになりました。

現在、年間約11000件の救急車搬送患者を受け入れており、ここ数年東京都では1番多く、全国でも3本の指に入る数であります。その約10%が、重症（厚生労働省の基準による）患者さんであり、これは都全体の割合とほぼ一致しております。

救外受診患者年度推移



災害訓練の実施

総務課総務係長

桐野 且久



国立国際医療研究センター病院では、毎年1月第3土曜日に災害訓練を行っております。今年は、1月21日に実施し、約250名の職員の参加に加え、外部より学生ボランティア54名が参加しました。

また、新たな取り組みとして今年度、夜間休日帯の時間を想定した訓練を実施しました。



災害対策本部の様子

重要な情報が災害対策本部に集約されます。



トリアージ班の様子

病院に来院する患者さんは一旦トリアージを受けて、レベル別に振り分けられます。



現場指揮所の様子

患者情報等情報が現場指揮所に集約されます。

市民公開講座のご紹介

副院長

原 徹 男



平素は円滑な医療連携に多大なご協力をいただき心より感謝申し上げます。さて本日はセンター病院で開催している市民公開講座についてご紹介したいと思います。

国立国際医療研究センター病院では、地域の皆様の健康の維持と増進を図ることを目的として2016年11月より毎月1回市民公開講座を開催しております。これは近隣の皆様、当センター病院にかかりつけの患者さんならびにそのご家族を対象として、がん、感染症、心臓疾患、脳卒中、糖尿病など身近な疾病を取り上げ、医師や看護師を中心とするそれぞれの専門家がわかりやすく疾病を解説するものです。地域の皆様に医療や医学の知識を少しでも身につけていただき、病気になるべくかからないよう予防していただくことも大きな目的としております。一般によく言われている

ことですが、市民公開講座を開催すると、心配になった患者さんが急激に増えるという現象があります。もちろんほとんどの方は問題ないのですが、一部の方は初期の段階で疾病が見つかり、結果として軽症の段階で治療が開始できたという場合もあります。スマホやタブレットの浸透でいつでもどこでも疾病に関する情報が簡単に手に入れることができる現在ですが、多くの方にとって外来受診はなかなか踏み切りがつかないことも多いのではないかと思います。その意味で気軽に参加できる市民公開講座の持つ意味は大変大きいものがあります。今後も地域の皆様にとって身近なテーマを順次とりあげ正確でわかりやすい情報を提供させていただく予定です。本公開講座の参加費は無料、お申込み不要でどなたでもお気軽に参加いただけますので、貴院にご来院の患者の皆様をはじめ、多くの方々にご来場いただけますようお願い申し上げます。尚これまでの開催内容は以下のようです。今後の予定はホームページ上で随時お知らせいたします。

開催日	テーマ
2016年11月14日	糖尿病を知ろう ～身近な話題から最先端の治療まで～
2016年11月18日	あなたから始められる、緩和ケア
2016年12月16日	緊急で治療した方がよい心臓血管の病気
2017年1月20日	大事に使おう、抗生物質
2017年2月17日	骨粗しょう症と転倒予防



看護通信

認知症看護認定看護師の活動

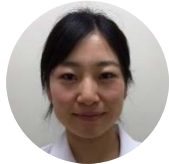
認知症看護認定看護師 丸藤由紀

当院では2016年4月に認知症ケアチームが発足しました。メンバーは精神科医、精神保健福祉士、臨床心理士、認知症看護認定看護師で構成されています。認知症をもつ人が、環境変化などの要因で行動心理症状が出現すると、ご本人の苦痛以外に治療も困難になります。入院された方が、元いた場所に戻れるよう、なるべく落ち着いて入院生活を過ごせるように、病棟看護師とチームでケア方法を検討しています。ケア方法では、生活史を大切に、ケアへのヒントにしています。また、ユマニチュード認定インストラクターとして、人間関係を大切にされたケアをおこなっています。ユマニチュードは、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションにもとづいたケアの技法です。人とはなにか、ケアする人となにかを問う哲学と、哲学にもとづく技術を勉強会を通じて伝達しています。



管理栄養士

岩上 珠生



春を告げる野菜、菜の花。かすかな花の香りとほのかな苦みが魅力です。

菜の花は、とても栄養価の高い緑黄色野菜で、抗酸化力のあるビタミンEやβカロテン、ビタミンCが豊富に含まれており、特にビタミンCはほうれん草の4倍近く含まれています。

また、鉄分の含有量は野菜の中でもトップクラスで、貧血予防の効果も期待できます。

一般的に“菜の花”として食べられているものは、かぶや大根と同じ花やつぼみのついたアブラナ科の植物で、近年ハウス栽培により年中出回っていますが、春先のものが一番栄養価が高いと言われております。

まろやかで甘みのある西京味噌との相性が抜群ですので、ぜひこの時季に春の味覚を堪能してみてください。

～菜の花のぬた和え～

〈材料〉(2人分)

菜の花 1束
鶏ささみ 1枚(50g)
塩蔵生わかめ 10g
○西京味噌 大さじ2
○酢 大さじ1
○酒 小さじ1
○砂糖 小さじ1

お好みで柚子の皮 少量

※乾燥わかめなら1g(小さじ1/3)

※西京味噌の代わりに白味噌でも可

(1人あたり：エネルギー55kcal 塩分0.5g)



○作り方

- わかめは洗って水で戻し、水気を切り小さく切る。
- 菜の花を1/3に切り塩をひとつまみ入れた湯でさっと茹で、水に放ち軽く絞る。
※まずは茎の部分の1/3から茹で始め、後から葉を入れると良い。
※茹であがったら、すぐに冷水に放つと色よく仕上がる。
- 鶏ささみは火が通るまで茹でて小さく割く。
- の調味料をよく混ぜて、菜の花、ささみ、わかめを和える。
- お好みで、刻んだ柚子の皮を添える。

医師人事異動

採用・転入等

退職・転出等

発令日	役職名	氏名	備考	発令日	役職名	氏名	備考
H29.2.1	麻酔科	鈴木 祥子		H29.1.31	総合診療科医師	峯 有佳	

外来診療時間 8:30~17:15

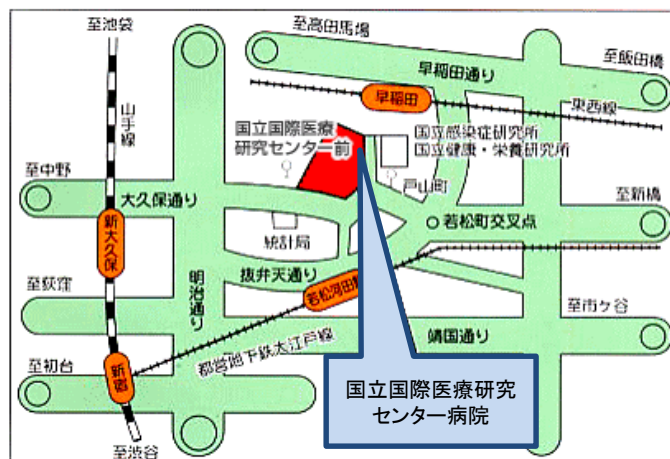
- 初診受付 紹介状が無い場合 8:30~11:00
- 紹介状が有る場合 8:30~14:00

ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科の6科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」となっています。

- 休診日 土・日・祝日・年末年始

アクセス

- 都営地下鉄 大江戸線「若松河田駅」より徒歩5分
- 東京メトロ 東西線「早稲田駅」2番出口より徒歩15分
- JR大久保駅又は新大久保駅より都営バス「新橋」行 国立国際医療研究センター前 下車
- 新宿駅西口より都営バス「医療センター経由女子医大」行 国立国際医療研究センター前 下車



国立研究開発法人

国立国際医療研究センター病院

〒162-8655

東京都新宿区戸山1-21-1

TEL 03-3202-7181

FAX 03-3207-1038

ホームページ

http://www.ncgm.go.jp/

